

# 勝山市の曙

過去から現在そして未来へ



勝山市役所開庁式  
(昭和29年9月1日)

平成26年9月1日をもって勝山市は市制60周年、人生でいえば還暦の年を迎えることになりました。そこで過去をさかのぼって勝山の姿を見ていきたいと思えます。昭和29年(1954)に大野郡に2つの市が成立します。大野・下庄の2町と7村が合併し人口約43,500人の大野市と、勝山町と8村が合併し人口約39,000人の勝山市です。明治21年に「市制町村制」が公布され1町9村(猪野瀬村は昭和6年に勝山町に合併)が成立したのは翌22年で西暦1889年です。市制60周年を迎えた平成26年は2014年で、明治の合併を起点に考えると勝山市制施行の前と後でほぼ同じ年月が経過したことになります。

## 中世から江戸時代

12世紀の中頃から平泉寺が大きな力を持つようになり、九頭竜川沿いにその勢力を拡大していきます。15・16世紀の交に、大野郡は九頭竜川と真名川が合流する下荒井のあたりを境に、現在の大野市域を中心に南袋、私たちが住むこの勝山市域を中心に北袋と

呼ばれるようになります。南袋はそれほど一般的ではありませんが、北袋という呼び方は江戸時代を通じて使われていきます。例えば九頭竜川右岸の村々の慶長3年(1598)の大岡検地帳には、「越前国北袋内(毛屋)村」などと記されています。

## 明治から昭和

明治時代に入ると勝山地区は北袋に変わって大野郡北部という言い方が一般的になります。それに対し大野地区は郡南部と呼ばれ、しかも明治11年大野町に郡役所が置かれたことで郡の中心としての地位を確立します。以後両地区はことあることに対立し北部では分郡運動さえ起りました。しかしこうした逆境をバネに勝山地区はタバコ・製糸、そして機業を発展させてきました。一方で昭和10年代には大野・勝山両地域を奥越と呼ぶ言葉も生まれました。昭和の町村合併により両市が成立したのは、上記のような経緯を踏まえると必然であったのかもしれませんが。

## 昭和の合併、その経緯

平成の大合併では2004年にあわら市が、2006年には坂井市が誕生しました。昭和の町村合併は昭和28年の町村合併促進法により進められ、大野郡北部の県合併試案は勝山町外5ヶ村(村岡・遅羽・平泉寺・野向・北谷)と、3ヶ村(荒土・北郷・鹿谷)の2ブロックとするものでした。そのため最初のうちは両ブロック独自の話し合いが行われていました。ところが、その後しばらくして市の設置基準が3万に緩和されることになりました。しかし5万に改正される前に市制決議しないと永遠にその機会は訪れません。ところが1町5ヶ村ブロックの人口は21,918人で、両ブロックが大同団結しない限り、第1条件がクリアできません。こうして市制実現に向けて両ブロックの間で、29年1月以降真剣な激論が幾度も交わされることになったのです。合併の利益として財政力の強化、行政経費の節約と事務処理の効率化、税金の効率的な使用、人材登用などがあげられました。



神明神社での廃町村式(昭和29年8月31日)

一方、合併を否定する要因としては、人情風俗の相違・愛郷心喪失への不安、財産の不均衡、役場など公的機関への距離的不安感などがありました。当初の試案による話し合いがかなり進んでいたことや、ブロック間の不信感など数々の問題はありました。最終的に市制を実現することができました。その大きな原動力となったのが若者(青年団)と女性(婦人会)が示した行動力でした。

## 住民アンケート結果から

9月1日、勝山市が成立することになりましたが、7月

- 15日付け「町の新聞」第164号に「大勝山市に望む」としてアンケートが掲載されています。その中から青年団、保健所所長、商工会議所局長などの声を要約して紹介します。
- 1、機業家の団結で織物研究所を作り、時代感覚にマッチした織物を創作し不況を乗り切る
- 2、長山公園をグラウンド併設の公園とし、市民が気軽に利用できるようにする
- 3、市内バスの運行により相互に地域間の交流をはかる
- 4、婦人青年会館を建設する
- 5、伝染病を防ぐため上下水道を完備させ市民の健康を守る
- 6、働く婦人のために市民食堂を設け、また母親の健康を守り、婦人の労働力向上のため乳児保育所を建設する
- 7、市民の声を聞いて教育環境を整え生きた教育を行い教養ある人間を育成する
- 8、社会福祉事業を一層充実させる
- 9、市内における放射線・環境整備を行い、福井・金沢方面への産業道路を建設

## 勝山の将来を考える

10、田園都市としての魅力に加えて白山にかかわる伝統文化と、観光資源を生かし山岳都市を目指す

以上のように集約できます。今日すでに実現されているものがある一方で、まだ実現を見ていないものもあります。これまでの市の発展を祝いつつ、これらの意見も参考にしながら改めて勝山という地域を振り返り、市民一人一人が未来の勝山市のあるべき姿を考えていただけたらと思います。

(文責 勝山市史編さん室 山田雄造)

※表1は明治以降の勝山(市)の人口推移を示したもの  
※表2は29年10月15日に行われた市長選挙の際の有権者の数です  
※表3は30年の4月27日から5月1日までの5日間に行われた市制祝賀行事の日程と種目です

表1 勝山市の人口推移

年	人口
明治5年(1872)	28,777人
昭和15年(1940)	31,404人
昭和30年(1955)	37,554人
平成26年(2014)	25,132人

注) 平成26年の人口は4月1日現在

表2 昭和29年10月実施 勝山市長選時の有権者数

投票区	有権者数
勝山町	9,365
平泉寺	1,295
村岡	1,472
北谷	1,092
野向	1,155
荒土	1,649
北郷	1,745
鹿谷	1,951
遅羽	834
計	20,558

表3 昭和30年の市制祝賀行事の日程と内容

実施期日	内容
4月27日	市制祝賀・校舎落成記念 勝山中学校学芸会
4月28日	特別行事 物故自治功労者慰霊祭 戦没者慰霊祭 前夜祭 宝生流謡曲大会
4月29日	市制祝賀記念式典 琴・尺八・日本舞踊大会 祝賀旗行列・祝賀提灯行列・花火打揚大会
4月30日	支所訪問駅伝 カーニバル大会(機動・徒歩) のど自慢素人演芸 名士隠芸大会
5月1日	花菱アチャコ劇団公演 浪曲と万歳

※背景写真は、勝山市役所開庁式での万歳三唱の様子(昭和29年9月1日)